

大局を見ながら 長期分散投資を

リーマンショックやユーロ危機、タイ洪水など海外で発生したさまざまな問題が、日本に無縁でないことは周知の通りです。日本自体もバブル崩壊以降、経済は迷走を続けています。このような状況ですから、個人投資家の方々が投資に対して慎重になるのも無理はありません。

ただ、このまま世界経済は混迷を極めるのかといえば、おそらくそうではないでしょう。景気はいいときもあれば、悪いときもある。そのサイクルを繰り返しているわけで、未来のある時点で景気は回復方向へ進んでいくはずですから、近視眼的になつて「今、投資しても、どうせうまくいかない」と思うのではなく、もっと長期的な観点から投資・運用に取り組むべきではないかと思えます。

しかも、先進国の諸問題の影響があるとはいえ、人口が増加する新興国の経済成長はまだ続くと考えられます。日本に居ながらにして海外投資できる環境が整っているわけですから、こうした国・地域の成長力から生まれる果実（＝利益）を得るチャンスを逃すのはもったいないと思います。

では、どのような戦略で投資運用を行っていくか。投資の基本は「安く買って、高く売る」、もしくは「高く売って、安く買い戻す」です。そこに、時間の分散、投資対象の分散という「長期投資」と「分散投資」のスタンスを取り入れてリスクの軽減を図ることが、個人投資家にとっての投資運用の原則と言えます。

「時間の分散」「投資対象の分散」「国内外の分散」で、
リスクの軽減を図ることが大切です。

する、もしくは毎月少額でコツコツ投資し続けるようにします。投資対象の分散は、一つのものに資産を集中させないということです。また、株式や債券で運用する場合、リスクヘッジのために株式、債券の値動きとは異なる動きをする傾向にある金などの商品（コモディティ）にも投資することが大事になります。さらに、何かと投資対象が国内のものに偏りがちですが、やはり海外に目を向けるべきです。今後の経済成長力・展開力に注目しながら、先進国、

新興国にもバランス良く投資していきましょう。
長期投資は、投資した金融商品の短期的な価格変動に一喜一憂するのではなく、賢く殖やす分散投資のすすめ



ではなく、もっと長いタームで利益を追求していくこと。よく「買ったら下がり、売ったら上がって悔しい思いをした」という話を聞きます。でも、それは最終的に利益が出ていれば構わないと鷹揚にとらえるべきでしょう。仮に100万円を買って、1年後に103万円で売った翌日に、105万円まで株価が上昇したとしても、現在の金利水準の預貯金では決して得られない年率3%の利益を獲得できたわけですから、悔しがる必要はないのです。要は、投資の原則を言い換えるなら、「大局を見る」ということです。投資するのは国内だけという局地戦ではなく世界を見据えた広域戦で、短期戦ではなく長期戦で、というのがセオリーと言えるでしょう。

目的などに応じて 投資ツールを選択

こうした長期分散投資のために使うツール（金融商品）はたくさんあります。ベシックなものとしては株式、債券、投資信託、ETF（上場投資信託）などが挙げられます。加えてREIT（不動産投資信託）、FX（外国為替証拠金取引）、CFD（差金決済取引）など、比較的新しい金融商品もあります。資産形成を考える際には、投資の目的、運用期間、目標金額を設定し、ご本人のリスク許容度・経験などに合わせて、使うツールを選択するのがコツです。投資が初めてというなら、数千円から数万円程度の少額投資が行えるベシックな商品で試してみるのが良いでしょう。株や債券のリスクヘッジのために、割安な手数料で金ETFを購入するという工夫もいい方法だと思います。

FXやCFD、新興国などへの投資は、投資運用に慣れてから。特にFXやCFDでレバレッジを利かせる場合、手持ち資金以上のリターンを得る可能性があります。その分リスクも高くなるので注意が必要です。ただ、どちらも手数料等が割安で、「買い」からも「売り」から取引が開始できる点は魅力です。

【資産形成を考える際の重要なポイント】

運用目的は何か？

運用期間はどれくらいか？

運用利益目標はいくらか？

CFDは個別株や株価指数、債券、コモディティなど取扱商品が豊富なので、投資経験が増すにつれ、使い勝手の良いツールになると思えます。

なお投資運用にあたり、雑誌、新聞や口座を開いている証券会社などのサイト等を活用して、情報収集

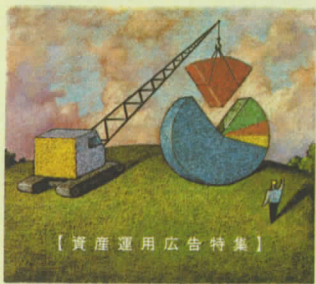
伊藤 亮太 Ryota ITO

CFP（サーティファイド ファイナンシャル プランナー）、
DCアドバイザー
スキラージャパン株式会社 取締役副社長

1982年生まれ。学生時にCFP、DCアドバイザーの資格を取得。証券会社勤務を経て2007年11月スキラージャパン株式会社設立に参画。独立系FPとして、資産運用や保険の見直し、ライフプランニング等の相談、金融機関等における講演、執筆は多岐にわたる。東洋大学経営学部非常勤講師。著書/「ゼロからわかる金融入門 基本と常識」(西東社)ほか

を行い、世界経済がどのような方向へ流れていくのか俯瞰することは不可欠です。そして、たとえば、毎月お小遣いから2万円投資するとか、利益損失が何%になったら決済するとか、自分なりのルールを決めて、それを守ることも損失を抑えるという点で重要になります。

金融リテラシーが高まることによって、実利を得られる可能性も高まりますし、見えてくる世界も広がるはず。個人投資家の皆様が投資運用を楽しみ、いろいろな意味で豊かになっていただければと思います。



【資産運用広告特集】